

新春
金融トピック

下

「今年の経済展望は。」「日銀や政府の発表は中小企業の置かれている現状とずれがあるように思う。例えば、原油価格は下がったものの、急速な円安進行で効果が相殺されるデメリットが発生している。明るい材料としては、取引先で長く我慢してきた設備への投資計画が徐々に始まっている。バラ色の先行きとはいかないが、大企業が引っ張って中小企業に波及するよう期待したい。ただし、今後の為替動向は十分注視する必要がある。政府には単なるばらまきの補助金ではなく、しっかりと効果の出る経済政策を望みたい」

――重点事業は。

「財務基盤や人材育成など内部固めに力を入れる。特に人材育成は喫緊

人材育成で内部固め



◆岐阜信用金庫 高橋征利理事長

の課題。今年は1年間、ベトナムに職員1人を派遣する。海外派遣は3人目で、いずれも将来を担う若手。戻ってからも職員の中で波及効果を出してほしい。店舗戦略では他の金融機関が力を入れているように愛知県は魅力的な市場であり、新規出店も大切と考えている。しかし建て替えも避けられない状況で、今年も2、3店の候補がある。10年後の100周年に向けて、本部や本店の建て替えも検討することになるだろう」

――海外展開の支援は。

「2013年から海外の子会社に直接融資でき

海外への直接融資を強化 ニーズを見極めて支援へ

るようになり、実績を積んでいる。現状は円貨ベースで為替リスクは顧客が持っているが、それでいいとは思っていない。現地通貨で為替ヘッジできるかどうかは今後の課題になる。最近日本と同水準の細かい要求が増えてきていることから、しっかり応えられる体制を整え引き続き直接融資を増やしていきたい。近い将来、駐在員事務所の検討が必要になる時期も来るだろう」

――低金利が続く中で強みをどう出すか。

「顔の見えるコンサルティング営業に力を入れたい。個人のライフサイクルに合わせて資金や法的なサポートを提供し、法人も創業から事業承継

までニーズを見極めて支援する。結果として良質な融資につなげたい。まずは経営者の良き相談相手として、スピード感を持ち、感度よくニーズをつかみ、かゆい所に手が届くことが必要。日頃からのコミュニケーションは、振り込め詐欺などの犯罪被害の防止や地域活性化にも役立つのではないかと」

――人材育成の方針は。

「当金庫の研修制度は自慢できるレベルだと思うが、資格取得や業務知識向上に偏りがちな面もある。時間や人手が限られてはいるが、人を大きくする研修に力を入れていく。また、女性が活躍できる職場づくりも重要だ。例えば、育休中に悩みを相談できる座談会を開き、復職後も時短勤務に対応しており、こうした取り組みをさらに推進していきたい」

――100周年に向けた抱負を。

「100周年に向け、これからの10年間は、何よりも先に質的なところを充実させることが大切だ。時代遅れと言われるかもしれないが、人間としての温かみを持った企業体でありたいと思う」